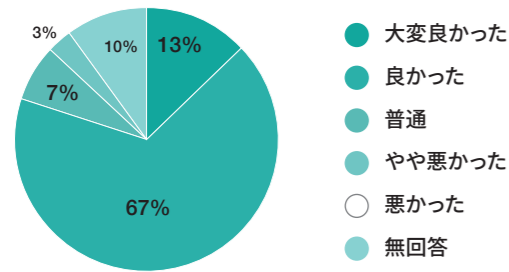


アンケート結果

Q1. 今回のワークショップの感想を教えてください。



Q2. 一番印象に残っていたことは何ですか。

- みんなで団子や大判焼きを買いに行ったこと。
- 動画の撮影上の工夫次第で、伝わりやすくなることがあること。
- スマホの動画の活用法。
- フリーな時間がとてもよかったです。日光のパワーは偉大です。
- やっぱりみんなで楽しくやるのが一番大事。
- あたたくてほっこりする幸せな動画作り。
- 動画作りの楽しさを味わえた。
- 目的意識の共有の難しさ。

宿題

①活動内容の確定

確定したら事務局まで連絡。誰に対する活動なのかを明確にし、6個以上の活動リストにしてください。

②撮影スケジュールの確認

何の活動を、いつ、どこで、誰に対して、どのようなストーリーで、担当を決めてください。

きっと仲間が見つかる。

プロジェクト紹介カード



これから高浜市をよりよくしていくには、アイデアを考える人やプレーヤー、活動に興味をもってくださるようなたくさんの仲間を増やしていく必要があります。プロジェクト紹介カードを使って、ご自身がワークショップで楽しく感じることに共感を得てくれる人を見つけ、ワークショップ参加してくれる人を招待してあげてください。誰かを招待して来てくれた方には、何かプレゼントがあるかもしれません。

T-LINE って?

ワークショップには「T-LINE」と呼ばれる市職員が入っています。ヒアリングやワークショップのファシリテーション技術を習得する研修を受けてきました。行政と市民、市民同士をLINEのようにつなぐ役割を担っているという思いが込められています。

studio-L

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。http://www.studio-l.org

〈問合せ先〉高浜市役所総合政策グループ

〔住所〕〒444-1398 高浜市青木町四丁目1番地2 [電話] 0566-52-1111 (内線339) [E-mail] seisaku@city.takahama.lg.jp

Q3. 撮影講義と体験はどうでしたか?

- いろんなテクニックがあることももちろん参考になりましたが、ちょっと視点、角度を変えることで面白い動画になる。
- ちょっとした技を駆使すると表現が大きく変化することが勉強できた。
- はずかしさ、照れなどありつつも楽しめた。
- 人に伝えるには技術も必要。

Q4. 今後、後チームで活動していく上で考慮してほしい点、不安な点などありますか?

- 他にチームとのマッチングができるキッカケがほしい。
- 市民が「できる」と思うことを考えられるか不安です。無理なく続けられ、楽しくなるものが考えられると良いです。

Q5. その他感想をご自由にお書きください。

- 身近なことから始めようとする、活動が限定されてしまう面もある(大規模なイベントは避け、時間内でやれることにしようという雰囲気) 計画策定後、この活動をどのようにつなげていくのか考えられるとよいと思う。



TAKAHAMA HAPPY LETTER
vol.5
2015.12.13.Sun

活動動画を撮影するために 動画撮影のコツを学びました

第5回目となるワークショップを開催しました。これからワークショップに参加されているみなさんは、身近な楽しみやしあわせづくりをするのに合わせて、活動をより多くの人に知ってもらうために動画を撮影することになります。映像作家である波多野さんをお招きし、相手に伝わる動画の撮り方のコツを学びました。また、学んだことを活かしチーム毎で「ほっこり・しあわせ・温かみ」をテーマに動画の撮影をし、波多野さんからの講評を受けました。

第4回ワークショップの振り返り

今後の展開に向けての意識共有をしました。テーマ毎のチームにいる人たちができる身近なしあわせづくりを「リスト化する」すること、活動を知ってもらうための「②動画づくり」をすることが話されました。夕張市の地域福祉の事例や、参考動画「Random act of kindness」の事例紹介もありました。

〔日時〕

12月13日(日) 13:30~16:40

〔場所〕

いきいき広場

〔プログラム〕

・開会のあいさつ

・第4回ワークショップの振り返り

・ワーク①

各チーム宿題、自主会などの確認

・レクチャー 撮影講義

・ワーク② 撮影体験

・ワーク③

活動内容の再整理と

撮影スケジュールの検討

・閉会のあいさつ

・編集会議



ワーク①

各チーム宿題・自主会などの確認

前回のワークショップ終了後から今回までの間に、動画撮影の練習としてチーム毎に動画を撮ってきてもらいました。前回のワークショップや動画撮影に参加できなかった方もいたので、改めてどんなことを気にしながら撮影したのかということを共有しました。



レクチャー

撮影講義

最近ではパソコンやカメラが普及し、誰もが簡単に動画の撮影や編集、すぐに世界中に公開をすることができるようになってきました。また、一眼レフなどを使うことで、映画並のクオリティを低予算で実現することもできるようになりました。今回の講義では、動画撮影のポイントを抑えて、少しでもクオリティの高い映像が撮れる方法を学びました。以下は、各チームが撮影したものに対して、波多野さんからのアドバイスをまとめたものです。



音楽・踊り チーム

三脚を使い固定した状態で撮影し、映像を切り替えることで変化をつけることで、よりダイナミックな動画を撮影することができるようになります。

良い点

歌がうまい
ややシュール

改善点

スマートフォンを縦のまま撮影しているため、横向きで撮影するカメラ1台のワンカットで撮影している
→**カット割りや2台のカメラで撮影して後で編集をする**
録音環境がよくない→音声のみの録音アプリを使う
著作権にひっかかる音楽を使用している

アウトドア チーム

ストーリー性があると動画に惹きつけやすくなります。色を変更することで世界観を打ち出しやすいですが、やりすぎると画質が劣化するのでバランスを考えましょう。

良い点

ストーリー性があり、セピア色にすることで雰囲気伝わる
重要な画を繰り返した

改善点

解像度が荒く何を撮っているのか分かりにくい
何を撮影しているのか意図が伝わりづらい
スマートフォンは遠くのもの撮影には向いていない
セピア色なのにテロップがポップ
最後の音をフェードアウトして終わると綺麗に聞こえる

健康・スポーツ チーム

カメラは光を集めて撮るので光源のない所での撮影には向いていません。室内で撮影するのであれば光のある方にカメラを向けて撮影するようにしましょう。

改善点

夜間の撮影は光が少ないので撮影には向いていません

食 チーム

映像の利点は圧倒的な情報量です。見せ方でいくらかでも印象が変わるので、編集を考えたカメラアングルや撮る画の細かい所まで意識するようにしましょう。

良い点

タイトルがあり、どんな内容の動画なのが伝わりやすい
アングルが固定されており見やすい

改善点

テレビで見るサイズである16:9にする
絵に関係ない物や、見切れた人物が写っている
室内撮影のため暗い

文化・芸術 チーム

テーマに当てはまるような映像をつくることを意識しましょう。また、写真や動画は、誰かに見てもらうことを意識して撮ると良いものになります。

良い点

ワークショップの雰囲気は伝わってくる

改善点

手ブレが気になるので撮りたい対象物に対して**カメラはなるべく動かさないようにする**
カメラのレンズが曇っていて映像が薄く見える→**レンズは綺麗に**

教育 チーム

どんなに画が良くても、画質が悪いと伝わりません。必ず正しい解像度で撮影するようにしましょう。iPhoneでもフルHD撮影が基本です。

良い点

正しい解像度フルHD(1920×1080)で撮れている

改善点

高解像度で撮れている分、手ブレしやすくなっている
デジタルズーム機能は画質劣化になるので使わない。なるべく自分から寄っていくようにする

ワーク②

撮影体験

波多野さんのレクチャーで学んだことを活かせるように撮影の実践をしました。「ほっこり・しあわせ・温かみ」のテーマのもと、映像作家になったつもりでカメラを持って、いきいき広場周辺でチーム毎に映像を撮りました。今回は編集はしませんが、いろんなアングルからいくつも映像を撮ることが後々の映像編集に生きてくることを実感するワークとなりました。



ワーク③

活動内容の再整理と撮影スケジュールの検討

活動を実践していくにあたり、活動内容について再検討しました。具体的には、活動することで誰かから「ありがとう」と言われること(地域福祉の視点)なのか、市民の人たちでもできること(実現性)が考慮されているかを見直しました。また、活動の撮影についても、何の活動を、いつ、どこで、誰に対して、どのようなストーリーで、担当は誰なのかを考えました。



レクチャー

編集会議

映像は編集の仕方によって印象がガラリと変わります。編集で重要な要素は

①音②カット割り(シナリオ)③フォント(デザイン)です。

音

早いテンポや遅いテンポ、ロックやクラシック、ジャズ、効果音などで与える印象が変わります。曲のテンポに合わせてカット割りのスピードも変わってきます。

カット割り

画を速い間隔か、ゆったりとした間隔で切り替えるかによって、映像のイメージを変えることができます。どういう映像にしたいか、どういう用途で使うかを事前に考えて必要なカット数を考えるようにしましょう。

フォント

ゴシック体と明朝体で与えるイメージが変わります。伝えたいイメージに合わせた書体を選ぶようにしましょう。文字は少し小さめにすることで洒落に見せることができます。文字色も雰囲気に合わせましょう。定まらないようであれば白や黒、グレーを使うことを推めます。

無料で使える映像編集ソフト

- windowsムービーメーカー
- VideoPad

まとめ

- 16:9の比率で編集する
- フルHD(1080P)で編集・書き出しをする
- 色補正は最小限にする(色温度は青か黄色)
- フォント・フォントカラー・フォントサイズを統一
- 音とのバランスを考える(カットの切り替え)
- 尺を決める(何分の動画にするのか)
- 人に見せることを意識する



波多野 功樹 | はたの こうき

名古屋在住。広告のカメラマン、映像作品の作成を仕事にしています。今回の活動動画づくりにあたり、高浜市に近く、市民主体で動画を撮り編集するという取り組みについて共感を得ていただいたことから、講師としてお招きしました。

<http://koukihata.com/>